



慈悲の心 平等と忍耐 沈黙は金なり

玄ちゃん ただ 座るのみ

発行日 仏誕 2573 年 (2007 年) 1 月 1 日 発行所 豊橋閣 (ほうきょうかく) 日進禅寺 発行者 MT スタッフ・No61・部数 1450 部

日進禅寺関係の方々と愛市憲章の方へ

寒くなってきました。いつもお世話になります。

開運インターネット除夜の鐘の撞鐘

百八つの煩悩を拭い去り、新春をお迎えするために撞く「除夜の鐘」を、1989 年 (平成元年) から撞いてきました。2001 年より、暖かく、安全に家につけるよう、また IT 時代に合わせインターネット撞鐘に改良しました。

除夜の鐘インターネット撞鐘は、日進禅寺ホームページ <http://www.111-940.com/> から「開運の鐘」で開き、暖かいお家で撞くことが出来ます。インターネット撞鐘は、皆様の開運隆盛・交通安全・家内安全・身体健全・学問向上・商売繁盛・心願成就・災障消除・恋愛成就・宝くじ、選挙の当選祈願・諸縁吉祥等等を祈願出来ます。

撞鐘回数は、煩悩の数の 108 回、36 分の一の 3 回でも、3 分の一の 36 回でもお好きなだけ撞いてください。インターネット撞鐘大歓迎です。

また、おみくじも引けます。年末年始以外は、その日の運勢の「開運の鐘」としてもご利用ください。

除夜とは？

除夜は、1 年の煩悩を拭い去る夜で、12 月 31 日の大晦日を言います。

除夜の鐘とは？

次の理由から 108 撞きます。

人には 108 の煩悩が有ります。これは、愛着、執着の事で、自分にとって離しがたく捨てがたい感情や感覚の事です。煩悩を拭い去り、新しい年を迎えると言う行事です。清らかな心で新年を迎えましょう。

百八の煩悩とは？

次の A の 18 と、B の 18 を加えた 36 に、三世 (過去・現在・未来) を掛けた物が百八です。

A の 18 とは、六根 (眼・耳・鼻・舌・身・意) で、人間の身体全体の働きを表し、これに、好 (良) い・悪い・平 (どちらでもない) の三種を掛けたものです。

B の 18 とは、六塵 (色・声・香・味・触・法) で、人身に入って本来清らかである心を汚し、これに、苦しい・楽しい・捨 (どちらでもない) の三受を掛けたものです。

罪を懺悔し、罪を作る心を取り除き、煩悩を拭い去ります。



幸せはそこにある 汗して働こう

ご先祖さまを大切にすることが親孝行で これが繁栄につながる

〜〜どの子も磨けば光る原石〜〜

(禅でら 2006.09.18 敬老の日号の続き)

十二 お葬式が出来たら、先ず菩提寺に連絡。葬儀社はその後です。

これはとても大事なことでして、寺側からしますと、ぜひともお願いしたいことなんです。お葬式が出来たとなると、家の方は皆さん動転してしまいます。どうしよう、どうしようと言っているうちに時間はどんどん経っていく。こちら千葉県の方でもそうかと思いますが、葬儀屋さんがいて、すぐそっちに一報してお願いするんじゃないですか、と思います。そればかりが頭にあって、お寺の住職さんのほうへ連絡することをコロッと忘れている方がいるんです。ハッと気づいて、「あ、そうだ、お寺だあ」なんていうことで、それから慌てて連絡をするんじゃないですか。

そうすると、葬儀屋さんというのは商売ですから、自分の都合だけで、やれお通夜は何時からだ、お葬式は何時だと決めてしまいます。葬祭場の会場を早く使い、次のお葬式が出来ても困らないよう、喪主がゆっくり仏様を送りたい気持ちはそっちのけで。皆さんのほうも、ただそれに応じてしまうんです。ところがお寺のほうに連絡しても、すでに別の予定が入っているとか、土曜日や日曜日のように法事が沢山あり、またすでに、別の家で先約のお葬式があるといった状況がなきにしもあらずです。

住職にも予定というものがございます。その日その日のスケジュールがあります。お葬式に住職が来なければ話になりませんから、まずお寺に連絡していただいて、「うちのだれそれが亡くなりました。お通夜とお葬式をお願いしたいのですが、お寺の御都合はいかがででしょうか」と、まずそここのところをおさえていただきたいと思います。これは最も大事なことでございます。

また、お葬式は故人が仏様になる大切な仏事だから、お葬式が終わり、出棺するまでお参りは静かにしましょう。よく、服装をたずねられますが、お葬式もお通夜も地味な服装なら黒でなくてもいいですよ。ただ、喪家の皆さんは黒が良いですね。一般会葬の皆さんのお参りは、お通夜かお葬式のどちらか一方でいいですし、お通夜だけへお参りする場合は、その時にお香典を持っていけばいいです。その場合は、もちろんお葬式はお参りしなくていいですよ。また忌明けに香典をいただいた方にお志を返しますが、これはしなくていいですね。亡くなった時に、いろいろな費用が要りますので、その仏事に使うための、互助と供養の心のための香典ですよ。このように、まだまだ悪い習慣が残っていますね。そろそろ、この三つはやめなければ、それは一つ、身内で無いのに、お通夜とお葬式の両方へお参りする。二つ、身内で無いお参りの人まで黒い略礼服で行く、身内以外は黒の腕章など要らない。三つ、お葬式の時に多額な香典をいただき、しかも忌明けに案内しない人にお礼の品を送る。こと、いらないですよ。このよううわべだけの形式や、業者の営業ベースでなく、死者の家族や関係の親族が、心から死者を仏様の世界へ送る大事な儀式ですから。

尚、お葬式のお寺へのお布施 これは細木数子さんのいうとおり、昔から「ご先祖さまのご供養をお願いしたお礼のお布施は、事前に喜捨(喜んでお渡し)するものです」、心付もおつけしますね。仏事は、何事もお寺へお願いするものですよ。お寺へお願いして、心を無心にしてお参りすることが、先祖様の供養になるのです。お布施は、先祖様の価値です。心を合わせお参りしましょう。

十三 社会人になったら、お塔婆は自分の名前で独自にあげましょう。

こちら、木更津(この講座を開いている千葉県内)のほうでは、どういうふうになさっているのでしょうか。

お葬式は、引導を渡すことが一番の目的です。そのあと初七日からは法事になります。追善供養になるわけです。亡くなった日を第一日と数えて七日目に行われるのが初七日法事です。それからさらに七日後に行われるのが二七日(ふたなぬか)法事といわれます。同じく三七日(みなぬか)、四七日(よなぬか)、三十五日(さんじゅうごにち)等、六七日(むなぬか等)、四十九日忌(しじゅうくにち)等、七日ごとに七回の法事は同じ曜日となり、百か日(ひゃっかにち)をつとめる決まりになっています。

皆さんのところではどうでしょう。そこまで丁寧になさっているお宅は少ないかと思います。でもね、法事というのは、なにも大勢人を呼んで、ガヤガヤとやるばかりではありません。家族だけでも、自分一人だけでもいいのです。

住職は先ほど言いましたように、檀信徒の方が亡くなったとしますと、その方のために毎朝のお勤めのときに必ずご供養しているんです。でも、住職にまかせておけばいいということだけでは無責任です。やはり遺族もそれに呼応して、せめて自分のところの仏壇においては、亡くなった人のために、「あっ、今日は二七日だな」ということで手をあわせて、「般若心経」の一卷も唱えていただきたいと思います。(注 当寺では、毎日ご供養するように話しているので、毎日していると思うが…)

さてと、二七日～六七日という途中の忌日に何もしなくていいのかというと、そういうわけにはいきません。せめて、お塔婆供養だけはしてやっていただきたいと思います。ということで、施主と次の跡取りさん、そしてお気持ちのある親戚さんは、二七日～七七日などにも、少なくともお塔婆供養ぐらいはしてやっていただきたいと思います。何もしないというのは、まずいですからね。亡くなった方に、まことに気の毒なことです。

お塔婆は、四十九日忌だ、百か日だ、一周忌だというときは、親戚や知り合いさんもおあげになるのは当然でしょうが、家の者も社会人になったら、若い人でも自分の名前でおあげいただきたいと思います。ましてや、すでに結婚しているんならなおさらです。独立した家庭なんですから、その自覚をもって、お塔婆をあげるように心がけていただきたいと思います。

十四 「お付届け」をお願いします。

(講師注＝お付届けは、菩提寺の維持発展のため、すべての檀信徒さんをお願いしています。お盆、暮れ、春・秋の彼岸会の年四回です。金額の定めはありませんが、一般的にその時の施主塔婆代〔七尺＝八千円〕を一回分の目安にしています。過去の方で納め漏れがないかは、ご来山の上ご確認ください。)(日進禅寺注＝盆、暮れの年二回です。ご希望の家は、お盆の施食会と、春・秋の彼岸会の立塔供養会です)

檀家さんには、私どもではお付届けを納めていただいています。お寺によっては護持会とか檀信徒会とか護法会といった、会組織を設けていらっしゃるところもありますが、その会費は寺の物でなく所詮会のものであります。ですから護持会とかがあるかどうかは別として、それとは別個にお寺そのものにお付届けをお考えいただくものであります。

私の寺の場合、護持会などはありませんが、ここに書いてあるような具合で、全員にお付届けをお願いしています。年四回のお付届けは、義務と思ってお納めいただいています。

金額の目安としては、大塔婆代ぐらいです。大塔婆は施主塔婆ともいっています。私どもの場合は七尺ですが、今八千円でございます。ちなみに小さいほうの六尺ものは半分の四千円です。それは親戚の方などがおあげになるものです。ですからお付届けは、大きいほうの施主塔婆代の金額を目安にお願いしているんです。目安ですので、倍以上のものをお持ちいただく方もいるし、低い方もいらっしゃいます。お施主さんの経済状態とお気持ちとの大小によるかと思えます。

お付届けというのは、会費ではございません。あくまでもお布施でございます。お布施というのは施しですから、一応の目安は申し上げますが、それでなければならないというものではないわけです。だから沢山お持ちいただく方もいるし、少なくいただく場合もあります。護持会の会費というのは、決まっている金額です。そこところが、お付届けと会費の大きく違うところだと思います。

いろいろ申しあげました。時間が経過して参りましたので、これで終わりにさせていただきますが、昨年とはちょっと違った傾向の話になったかと思えます。日ごろ、いろいろなところでこのようなことを私は申しあげているんです。檀信徒の皆さん方にこれから先も心得ておいていただきたいし、かつ次の世代に対しても言伝えていただくように、皆さんが家庭で教育してやっていただきたいと思います。そうすることによって、いずれ皆さん自身が目をつぶったあとも、その家の仏事、先祖供養は問題なく承継されていくのではないかと思います。

親がちゃんとやることをやってないと、子供は「そんなもんでいいのか」ぐらいに受けとって軽く考えてしまいます。それはいずれご自分が目をつぶったあとに、子孫に軽くみられ、そっぽをむかれるじゃないでしょうか。そしてその結果、ご自分が寂しい思いをするようになるのではないのでしょうか。

お粗末でありました。以上で終わりということにさせていただきます。

(仏教婦人講座の項終り)

禅寺の動静

URL <http://www.111-940.com/> の日進禅寺法要予定 (パスワード 2410) と、この動静は異なる部分もあります。ご了承ください。

2006 年 7 月 [法事] 22 軒。[命日・その他] 26 軒。[葬儀] 2 軒。

4～5 日＝横浜檀務 (帝国 H 他)。7 日＝名古屋檀務 (ご自宅)。9 日＝東京 (浅草観音ほおずき市他)。11・12 日＝名古屋檀務 (合掌殿)。27 日＝誕生会 (みなと)。29 日＝極楽会 (仁の路)。31 日＝精進落 (みなと)。

2006 年 8 月 [法事] 13 軒。[命日・その他] 51 軒。[葬儀] 3 軒。

6・13・15 日を含め、公共交通利用、ガードマンの交通整理にご協力ありがとう。

3 日＝新実会 (なか寿司)。4 日＝精進落 (吉田)。6 日＝お盆立塔施食会 (8:30～9:40＝回向タイム、10:00＝読経タイム、11:00 と 12:00＝初盆) 約 1500 人のお参り。8 日～9 日＝東京檀務 (丸ノ内 H 他)。12 日＝平安会 (杯)。13～15 日＝お盆。13 日＝迎え火、約 2300 人のお参り。14 日＝お盆精進落 (ボジュール)。14・15 日＝豊川檀務 (豊川のいずも)。15 日＝送り火、約 2100 人のお参り。19・20 日＝名古屋檀務 (合掌殿が良福寺会館)。24 日＝荻野会 (らく楽)。26～27 日＝東京と富士市 (浅草 S カーニバルと富士吉田火祭他)。29～30 日＝東京檀務 (帝国 H 他)。

2006 年 9 月 [法事] 16 軒。[命日・その他] 13 軒。[葬儀] 1 軒。

6 日＝精進落 (車ずし)。10 日＝精進落 (車ずし)。14 日＝吉田七福神会 (日進禅寺)。17 日＝精進落 (京寿し)。19 日＝中島会 (仁の路他)。21 日＝名古屋、他寺お手伝。22 日＝平安会 (ホテルアソシア)。20～26＝秋彼岸。23 日＝彼岸立塔供養会 (9:40～10:30＝回向タイム、11:00＝読経タイム) 約 1100 人のお参り。公共交通利用、ガードマンの交通整理にご協力ありがとう。26～27 日＝東京檀務と平安会 (丸ノ内 H 他)。29 日＝他寺お手伝。

2006 年 10 月 [法事] 21 軒。[命日・その他] 27 軒。[葬儀] 4 軒。

1 日＝精進落 (らく楽)。3 日＝尾崎会 (慈凜)。7 日＝米本家一周忌 (叔母)、二十七回忌 (その夫。應通寺様とらく楽)。8 日＝精進落 (市役所 13 階の光富久)。9 日＝新実会 (なか寿司他)。14 日＝笛岡家三回忌 (叔父。自宅とウエステージ) 遥拝。14～15 日＝東京檀務 (帝国 H 他)。16 日＝土井会 (くらかけ他)。20 日＝平安会 (ホテルアソシア)。21 日＝他寺お手伝。21～23 日＝大間まぐろ祭。27～28 日＝東京檀務 (帝国 H 他)。



日進禅寺のホームページを携帯電話から開くことができます。

二次元バーコードの読取りに対応したカメラ付携帯電話で、左のマークを接写で読取り、携帯サイト「日進禅寺ホームページ」に簡単アクセス出来ます。対応機種・操作方法是、携帯電話の取扱説明書をご覧ください。

法要予定は、<http://www.111-940.com/> パスワードは 2410 (にしいん) です。

不景気だからこそ ファイトをもって一生懸命働き 勉強しよう

墓地と墓石の管理について

皆様ご承知のとおり、日進祈念墓苑の所有者は日進禅寺です。お檀家様は、墓地の使用者です。従って、墓地という土地の所有者ではなく、墓地を日進禅寺から借りて、そこを使用しています。墓地には何の権利もつきませんし、また個人名で登記もしてありません。

ただ、有ってはいけませんが、もし墓石が倒れ、その為に人が怪我をしたりしますと、墓地を建立した皆様方の責任を問われたり、損害賠償責任が発生する事も有ります。過剰な心配は要りません。しかし、現在では権利ばかり主張する社会ですので、予めご承知置ください。

上記の事情も有りますので、万一墓石が傾いていたり、ずれていたり、危険な状態にある場合は、使用者、すなわちお参りする皆様、或は関係者が修理して安全に直しておいてください。お墓が傾いていますと、宗教的にも良くない事です。先祖さまに対し失礼になります。但し、仏教は易学ではありませんので、家業が傾くとか大病になるとは言いません。

尚、日進祈念墓苑のお墓の新設と修理は、日進禅寺指定の高橋石材工業所 (Tel 0532-53-0296) の施工でお願いします。他の業者の作業は固くお断りしています。

また、工事についてはお墓のお精抜き、お精入れが必要です。事前に日進禅寺へお申込みください。不明な事は日進禅寺へご相談下さい。

墓 地 使 用

ご葬儀での墓地 (約 90cm四方の広さ) 使用の開始は、墓地の使用布施は不要 (無料) です。

当寺墓地を予約する場合は、約 90cm四方で 30 万円位です。まだ余裕はあります。

また、路面電車の札木電停から 2 分です。

ご逝去されたら、お線香をお供えて、仏壇の扉も開けて

ご逝去され、家へ枕経にまいりますと、最近、仏壇の扉を閉めておいて「お経があがるまで、お線香をお供えてはいけないと親戚や葬儀社に言われた」と、ご自身の気持ちとは逆に、その間違っただけをさも本当のように、お線香をお供えていないお宅が有ります。これは迷信で、でたらめです。もちろん、僧侶の枕経の前にお線香をあげお参りしてください。皆様の気持ちは、ご逝去された仏さまに、直ちに、お線香、ローソクをお供えてお参りしたいことは当然です。ご遺族の、お参りするところが大切です。いたずらに、迷信を信じないようご注意ください。

また、「生きている体になっている」と、平気で嘘をいう人がいます。仏教では、嘘つきは罰が当たります。亡くなれば、生きていないのです。仏さまの道へ入られていくのです。

そして、**仏壇の扉は、ご先祖さまの冥加力をいただきますので開けてなければいけません。**

また、香典返しの中へ、ポケット塩を入れてはいけません。新しい仏さまは浄土の世界へ入っていきます。新仏さま (ご先祖さま) に、悪霊があったり、私達を死後の世界へ呼び寄せ連れていったりすることは決して有りません。日本へ仏教の伝来 (538 年) してくる前の間違っただけの信心で、これも迷信です。

極楽は貴方のところの中にあります。迷信を信じないよう！

ご葬儀のお霊供膳は、豊橋地方ではお葬式にもお供えします。どんな忙しくても、ご家族が心をこめて作りお供えします。尚、お寺で作ったものは、昔から一番良いとわれています。お霊供膳は、亡くなってから忌明けまでは毎日お供えします。

私たちが今日あるのも ご先祖さまのおかげです

お塔婆の片付等お知らせ

昨今、法律により「野焼き禁止」の為、日進祈念墓苑へ納めたお塔婆を業者に依頼し丁寧に片付けています。しかし、この遵法な事が理解出来ず「私の家のお塔婆だけを片付けた」と、誤解して当寺へ言ってきた方がありました。以前から、当寺では納めたお塔婆をこの方法で適宜片付けています。

また、花つば・線香立て・ローソク立て・空き缶等の危険物は花がら入れへ捨てないでください。

ご先祖さまへご結婚の報告諷経をどうぞ

家族が嫁いだ時、お嫁さん、お婿さんを迎えた時には、ご先祖さまへ感謝の「報告諷経」をしましょう。

今まで長い間、平和に健康に生活し、また、家へお嫁さん、お婿さんを迎えることが出来、家族の一員が増え、賑やかに一族が繁栄出来るのもご先祖さまのおかげです。この感謝の気持ちを、「報告諷経」でご先祖さまに報告し、一族の益々の繁栄と健康を祈願しましょう。いつでも、菩提寺の日進禅寺へお申込みください。

お仏壇の移転

お家の新築、引越しでのお仏壇の移動は、ご先祖さまに感謝し、お参りしてお仏壇を移転することが大切です。

お仏壇もお墓の向きも、東西南北どちら向きでもかまいません。「南向きが、太陽の光を受けるので良い」と、言われる方も有りますが、南半球ではいかがでしょうか。お仏壇もお墓も方角には関係有りません。皆様のお参りするところです。毎日、ご先祖さまに感謝し、お参りすることが一番大切です。

お仏壇は、マンション等の集合住宅は構造上例外ですが、上の階から踏みつけないところが、良いでしょう。特に、お仏壇は、毎日お参りして清浄にすることが大切です。お仏壇の扉を開閉しないようではいけません。また、お家の新築・移転にともなう、お仏壇の移動はお位牌のお精抜き・お精入れが必要です。時代とともに、大切な宗教儀式を知らない方が増えてきました。いかがかと？ 思います。

- 引越しでは、①移転前のお家でお精抜きをして、②新しいお住まいでお精入れをし、ご先祖さまの落ち着かれるご供養をします。ご先祖さまもニコニコです。
- 新築等は、①壊す前の今までのお家でお精抜きをし、②仮住まいでお精入れをして、また、③新しく出来た家へ越される前に仮住まいの家でお精抜きをし、④新しいお家でお精入れをし、ご先祖さまの落ち着かれるご供養をします。皆様ニコニコです。
- ただ、壊す前の今までのお家でお精抜きと、新しく出来た家へ越される前の仮住まいの家でのお精抜きを省略し、簡単に2回のご供養とする方もいます。
- しない方？ どうでしょうか。疑問が残ります。

お墓は遠近に係わらず、無縁になっては情けないことです。遠い場合は菩提寺にお願いするか、代参業者（お寺に許可を得た）にお願いして、ご命日やお盆・お彼岸にはお墓をきれいにしましょう。ご先祖さまをご供養することで日ごろの失礼をわび、私たちの益々の健勝・繁栄・安泰をお祈りしましょう。

法 事 の 申 込

日進禅寺では、皆様のご希望の多い土・日曜・祝日に、一軒でも多くのお宅のご法事を厳修するために下記のとおり受付ます。ご供養をお寺で行う上げ法事は、三か月前の 1 日から受付ます。また、ご供養をお宅で行うご法事は、三か月前の 10 日から受付を開始します。

受付時間は、土・日曜・祝日を除く平日の午前 7 時 30 分～午後 4 時で、土・日曜・祝日は法事で忙しいので正午～午後 4 時です。

ご希望の方は、・186-0120-111-940 (いちばんいいくよ＝携帯・PHS・公衆電話からも通話出来ます) をご利用ください。都合により、下記を除いて他の空いている日でお願いします。

記

- 1 月「1 日～7 日」と 12 月「20 日～31 日」＝修証会・松の内と年末で繁忙の為
- 3 月と 9 月の春秋のお彼岸の「お中日」と「その前日」＝彼岸立塔ご供養会と準備の為
- 8 月の「第一日曜日」と「その前日」＝お盆の山門施食会と準備の為
- 8 月「13 日～20 日」＝お盆とお盆休みの為

墓地が日進祈念墓苑以外のお宅は、土・日曜・祝日は忙しいので、お墓経を本堂で、ご法事に引続いてご供養します。但し、土・日曜・祝日の最後で空いてれば、ご相談のうえお墓へ同行します。

どなたも平等ですから、受付開始日より前に申込まないでください。

来年 2～3 月にご法事をご希望の場合は、すでに受付ています。1 月以前は締切りました。

ご法事を厳修しない方は、日進禅寺へ連絡は要りません。

来年 4 月のご法事で、ご供養の会場が本堂の場合は、来年 1 月 1 日～2 月末日の受付です。		
同	上	会場がお宅の場合は、来年 1 月 10 日～同 上 の受付です。
来年 5 月のご法事で、ご供養の会場が本堂の場合は、来年 2 月 1 日～3 月末日の受付です。		
同	上	会場がお宅の場合は、来年 2 月 10 日～同 上 の受付です。
来年 6 月のご法事で、ご供養の会場が本堂の場合は、来年 3 月 1 日～4 月末日の受付です。		
同	上	会場がお宅の場合は、来年 3 月 10 日～同 上 の受付です。

当寺の法要予定は、インターネット <http://www.111-940.com/> (パスワード 2410) でご覧になれます。

ご法事は、「正当命日に厳修するのが最良」のご供養です。最近では、「日曜日に厳修するのが一番良い」と思い違いをしている方もいます。これは、生きてる人の都合だけで間違いです。また、「正当命日より遅れて厳修するのは、ご先祖さまに対して失礼」となります。

ご家族だけのご法事は、平日でお願いします。正当命日が土・日曜・祝日の場合は、その日で結構ですが、10 時頃でお願いします。お申込の時に「家族だけ」と言ってください。

ご先祖さま 今日も一日ありがとう

上求菩提 下化衆生

「禅でら」・「カレンダー」と「お札」郵送のお願い

今回は、「禅でら」「代表役員の子供のころからの友人の竹尾文夫さん画のカレンダー」「ご祈祷済お札（檀信徒家の玄関や仏壇でおまつりし安泰と繁栄を願う）」と「バーコード付き付届封筒」を、郵送させていただきます。カレンダーを日常生活にお役立てください。

尚、「バーコード付き付届封筒」はお寺への付届けにご利用ください。

「ご祈祷済の交通安全ステッカー」と「ご祈祷済お札」は、本堂に置いてあります。ご自由にお持ちください。自動車・自転車・乳母車、そして子供さんの乗り物等へ貼って安全・開運等にお役立てください。

昨年（2006 年）までのお札は、日進禅寺本堂の賽銭箱右の「納め壺」へ納めてください。

尚、他の神社仏閣のお札は、授けていただいたところへお札参りをして納めてください。この場合も「お札のお札や、お願いの心づけ」は納めましょう。これが神仏に対する礼儀です。

年末・年始の付届けのお願いとお札

檀信徒の皆様には、「年末・年始の付届」をお願い申し上げます。皆様のお寺の運営費です。よろしくお願い申し上げます。付届のお札は、「栄太郎の開運 亥の飴」とさせていただきます。同封のバーコード付の布施袋をご利用ください。ご理解ありがとうございます。

また、ご先祖さまがない方で、墓地使用の予約の場合も付届をお願いしています。

年末年始の付届の無い方は、ご先祖さまをご供養する意志が無く、墓地使用の権利を放棄したとして除名させていただきます。

但し、破産等でお困りの方はご連絡ください。

本堂の開扉時間と電話連絡

日進禅寺の本堂は、原則として、次の時間は開いています。ぜひ、お墓参りの前後には、本堂のご本尊さまと、三階祠堂殿の各家のお位牌にもお参りください。変更する場合があります。

午前 7 時 30 分～午後 4 時、

お盆の 8 月 13 日と 15 日は、午前 6 時 30 分～午後 7 時です。

時間外は安全のため、本堂は閉めてあります。時間外のお参りは、当寺へ電話してください。

お墓は、夜間以外何時でもお参り出来ます。防犯上、夜間のお参りはご遠慮ください。夜間立入禁止の理由は、元来墓地は安全な場所でしたが、時代の流れとともに治安が悪くなり、不審者も勝手に墓地へ入るようになりました。参拝の皆様が、犯罪の被害を受ける恐れがありますので、8 月 13 日の迎え火と 15 日の送り火以外の夜間は安全のため立入らないでください。

怪しい者を発見した場合は、すぐ警察（110 番）へ連絡します。加えて、寺・墓内外を 13 台の防犯カメラで撮影し録画し、警備保障会社にも警備を依頼しています。

また、電話での連絡は、祝日を除く、月曜日から金曜日までの午前 7 時 30 分から正午まで、午後 1 時から 4 時までにご利用します。土・日曜と祝日の午前 10 時から午後 1 時頃までの時間は、法事で多忙ですので避けてください。代表役員は午前 7 時と午後 3 時頃が暇です。

ご葬儀の電話も、なるべく時間内にご利用します。ご協力ありがとうございます。

当寺の電話は番号通知です。非通知では通じませんので、電話番号の前へ「186」を付けて掛けてください。

・ 186-0120-111-940（いちばんいいよお＝携帯・PHS・公衆電話からも通話出来ます） をかけるとメッセージが聞こえ通じます。